



16年間の市政を振り返って

江別市長

# 退任インタビュー

江別市長 **三好 昇** みよし のぼる

**略歴**  
S47.5 北海道職員採用  
H17.4 北海道石狩支庁長  
H19.5 江別市長  
R 5.4 江別市長 退任（4期16年）

**要職**  
R 1.5 北海道市長会 副会長  
R 2.6 全国市長会 副会長  
R 3.5 石狩地方開発促進期成会 会長  
R 4.6 全国市長会 副会長

この度、私は4月30日の任期をもって江別市長を退任いたします。

4期16年にわたり、市長の重責を担うことができたのも、江別を愛する市民の皆さんのご理解とご協力があってこそと思い、心から感謝申し上げます。

― 就任当時にまず取り組んだことを教えてください

就任当時、市民有志の皆さんからの要請を受けて取り組んだ最優先課題が市立病院の再建でありました。当時は専門医制度の導入など極めて難しい状況でしたので、再建にあたっては非常に不安がありました。

また、市町村の財政も非常に厳しい状況でした。新篠津村との合併協議は、まちづくりに関し意見に相違があることなど判明し、市民の皆さんをはじめ、議会、自治会、企業、大学などのご協力をいただきながらどのような対応をすべきなのか自問自答の日々が続きました。

私自身、行政経験はありませんでしたが、市町村行政は素人ですのでもさまざまな意見をま

め切れるのか、そんな不安の中でのスタートでした。その際に、多くの市民の皆さん、議会の皆さんから背中を押していただき、ただただ感謝の気持ちでいっぱいでした。

― 人口減少問題にも直面していましたか

4期16年を振り返ると大きな課題となりましたのが、人口減少の問題をどう対応するかでありました。さまざまな意見がありながら何から進めていくかが課題でした。

その中で大変うれしかったのが、若いお母さんたちお父さんたちが江別で子育てをしたいと思ってくれていることが判明し、その中で何が一番求められているのか。子育て中の職員に集まってもらい議論をしていただきました。

そこでの意見は「雨の日でも雪の日でも自由に遊べる広場を作って欲しい」との思いのもと「子育てひろば ぽこあぽこ」を設置しようということになりました。お母さんたちの意見を取り入れ、子育ての目線で施設を作り、高い評価をいただいたことが大変うれしく思いました。

そのような観点から、子育て関連を充実すれば、もっと江別を選んでいただけるのではないかとヒントから、その後も保育所や学童保育の待機児解消、保育料の軽減を進めてまいりました。

総務省の発表では、当市は年少人口の転入超過が昨年は全国16位です。一昨年は18位で、5年間連続で全国20位以内となり、道内では札幌市と江別市だけです。そのような意味でも、市の取り組みが実績として現れているものと思っています。

子育て対策をさらに充実することにより、自然減を転入超過でカバーできれば、出生数の増も期待できるのではないかと考えております。

― 街づくりにどのような取り組みをされましたか

就任当時の課題の一つに「江別の顔づくり事業」があります。鉄道で分断されている野幌駅の北側と南側を鉄道高架でつなぎ、交通の利便性を高め、まちの活性化を進める計画です。

当時は大規模な事業でしたが、賛否両論ありましたが、

私は鉄道で分断された街に風穴を開ける極めて重要な事業であると理解してきました。この事業を完成することが必ずや江別の活性化につながるの信念のもとに進めてまいりました。

旧ヒダ工場が「EBRI（エブリ）」という形で新たな商業施設に生まれ変わり、ホテルができ、そして市民交流施設「ぶらっと」が完成したことにより、野幌駅の南側に人の集まる場所と、さらには人がとどまる場所ができて、野幌駅を中心としたまちづくりの核ができたのではないかと思います。これも、顔づくり事業の一つの成果であろうと思っています。

### 健康づくり、そして高齢化への対応は

当市の課題の一つに、高齢化があります。団塊の世代の方々が多く、2025年には、全員75歳以上になります。

それまでに、健康に関連する対応として、健康づくりを進めていかなければならないと考え、取り組んだ事業が「健康都市宣言」であり、「江別版生涯活躍のまち構想」の実

施であります。

この構想には、福祉施設グループホーム、サービス付き高齢者住宅、地域の方と交流する施設として温泉やパン屋、食事ができる場所としてうどん屋、働く人たちの保育施設などの設置をお願いいたしました。

コロナ禍ということもあり、どのように利用されるのか心配でしたが、令和3年のオープンから18万人の方が利用されており、地域の方との交流の場ができたものと思っています。

これは市が目指す、あらゆる人たちが集い、そしてお互いに理解し助け合う「共生のまちづくり」のモデルになるものと思っています。

今後はこの流れをぜひ、地域の特性に合わせて、江別地区・野幌地区につながるよう努力していかなければならないと考えています。

### 市立病院の再建はどのように進められたのでしょうか

就任当時から、医師確保と経営再建は大きな課題でした。医師確保については、就任前から多くの方にアドバイ

スをいただき、特に、産科の再開にあたっては、当時の院長をはじめ、北海道大学の産科の先生に多くのご協力をいただきました。集約された産科の再開は確か江別市が初めてだと思います。その意味では、医師確保と経営再建の弾みをいただいたものと考えております。

また、札幌医科大学からも協力いただき、総合医の研修機関として指定され、総合医の研修をする体制を組むことができましたが、その後の指導医の退職により、再び経営危機を招きました。

その再建にあたっては、経営再建計画を策定し、その計画に基づき病院事業管理者として、旭川医科大学の元教授を招き、現在、その病院事業管理者のもとに、病院の再建を進めております。

経営再建には多くの時間をいただきました。この間、市民の皆さん、そして関係者の皆さんからの応援のお気持ちに伝えるためにも、職員一丸となって経営再建に努めていかなければならないと思っています。



### やり残したことなどはありますか

振り返りますと、積み残した課題として、江別駅周辺の活性化、さらには市庁舎の耐震化などが残っています。さまざまな事情がありまして具体的な着手に至らなかったこと誠に申し訳なく思っております。

特に、江別駅周辺の活性化については、期待される事業が約束どおりに至らず、一からのスタートになったことを申し訳なく思っています。

庁舎の耐震化は、現在、国と協議中ではありますが、防災の観点からも急ぐ必要があると考えています。

### 最後に市民の皆さんにひとことお願いします

この16年間を振り返り、市の舵取りは十分であったのか皆さんの期待に十分応えることができたのか、不安でありますけれども、この間、多くの市民の皆さん、そして自治会や関係機関、関係団体の皆さん、大学や企業などの関係者の皆さんにご支援ご協力いただきました。市政運営をすることができました。皆さんからいただいた温かい心ご配慮は私の生涯の宝物となっています。

江別には、誇れる素材がたくさんあります。世界的に貴重な野幌原始林をはじめ、おいしい農産品もあります。さらに、大学などの研究機関もあります。そこには素晴らしい人材も自慢の企業もあります。そして、心温かい市民の皆さんもいらっしゃいます。私は、江別市がまだまだ発展することを確信しています。今後、市民の皆さんのますますのご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

(終)